

編集後記

こんにちは、編集幹事の関口です。私は教員養成大学で天文学を教えています。小学校免許に必要な初等理科、大部分の受講生が文系分野の講義では暦の話から始めます。二十四節気は皆さん言えますでしょうか。読み方にはじゅうしせっき、にじゅうよんとは言わないようです。季語にもよく使われますが、講義で扱うまで私もあまり聞きなれない語句なんかもありました。芒種とか白露とか。あと節分と立春の違いとか(立春: 冬至と春分の中間の節気、節分: その前日)。

啓蟄は虫たちが土からはい出し、動物たち(ホ乳類?)が眠りから覚め、植物・花たちが繁茂する頃で、今年は3月5日でした。もちろんこれは本州でのこと。北の大地、北海道ではちょうど今時期に相当しそうです。本号の著者締切が4/27、それに続く私の編集作業出版社入稿締切が本日5/7。大型連休明けです。この時期、北国には春が一気にやってきます。桜前線は梅前線にちょうど津軽海峡あたりで追いつく

ので、サクラもウメも一緒。モクレン科のキタコブシやケシ科のエゾエンゴサク、カタクリも全部一緒。一緒と言えば桜の開花宣言と満開宣言が同日なんて年もあります(今年は旭川では開花日が4/24、満開日は4/26でした)。私の北大ピリカ望遠鏡出張がこの大型連休直前でした。旭川から北に1.5時間の名寄までの道中。若いキタキツネに会いました。ウグイスはまだ下手くそなナワバリ主張。ハクセキレイが運転中の車の前を横切り、上空でオオハクチョウのV字飛行が見えました。冬眠から覚めたヒグマも活動をはじめたようで、この日、名寄の住宅街でハンターによって駆除されたとのTVニュース。今朝も道内7ヶ所でヒグマの目撃情報とNHKが伝えています。今年は昨日5/6が日本で一番遅い桜開花(根室)となりました(チシマザクラ)。北の大地は春いっぱい。(そんな私は春風邪をこじらせ、大型連休38℃台の中これを書いています。とっ散らかって、時節ネタあまり締まらず、オソマツ…関口)